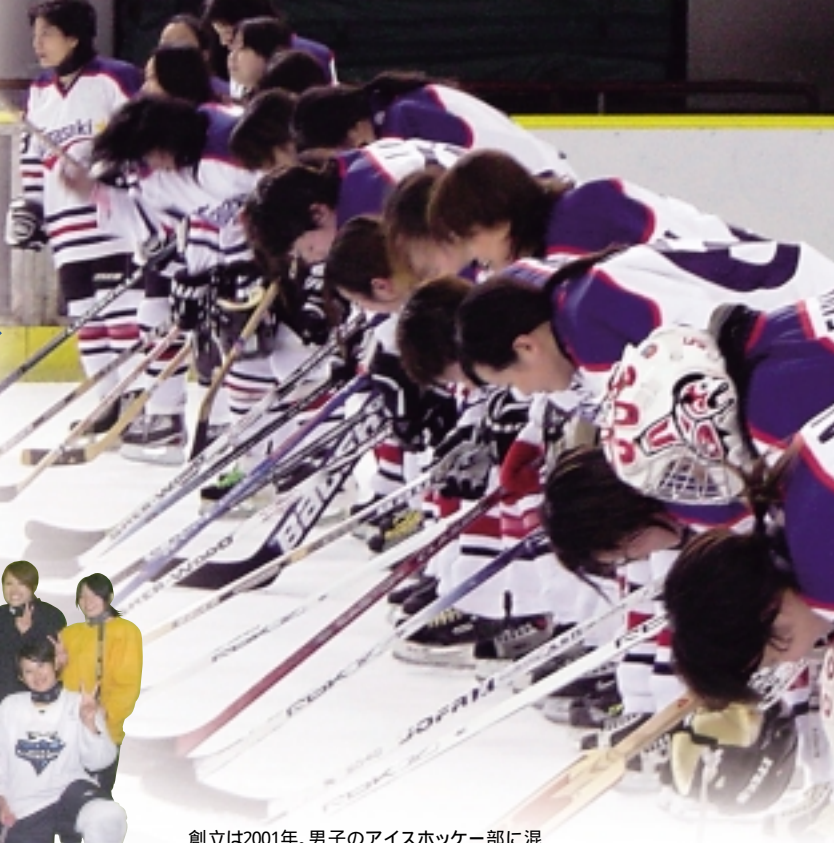


学生時代を謳歌するならやっぱりサークルでしょ

We Love Circle

女子アイス ホッケー部



創立は2001年。男子のアイスホッケー部に混じって練習をしていた数人の女子が立ち上げた。練習場は長崎県で唯一スケートリンクを持つ長崎スポーツセンター。シーズン中(10~4月初旬)は氷上練習が中心。オフシーズンはインラインホッケーと陸上トレーニングで体づくり励む。

氷上ならではのスピード感がたまらない!

「えっ、長崎でアイスホッケー?!」。北国のスポーツというイメージが強く、やっている人もまだまだ少ないことから、そんなふうによく珍しがられると話すのは、キャプテンの首藤奈津子さん。部員たちもはじめは皆アイスホッケーのことは何も知らず、ただ明るく楽しそうな部の雰囲気ひかれて入部して来るんです。練習は週2回、リンクに立つことさえままならなかった人もいつしかスイスイと滑れるようになり、約1年後には技術と体力を身に付けたプレイヤーへと成長します。アイスホッケーはスピード感がたまらないエキサイティングなスポーツ。技術を一つひとつ身に付けることに喜びがあり、その魅力にはまっていくんです。ときに、氷上の格闘技と称されるほど激しいプレイも見られるアイスホッケー。ヘルメットやグローブ、プロテクターなどの防具で全身を包んでいるので、ちっとも怖くありません。ぶつかって倒れても、氷が冷たくて気持ちがいらいらいです(笑)。



キャプテン
首藤 奈津子さん
(水産学部4年)
ポジションはゴールキーパー。目にもとまらぬ速さで打ち込まれるバックと日々格闘。仲間にもいつも助けられています。

北海道や関東の強豪チームなどが参加する全国大学女子アイスホッケー選手権大会では、過去ベスト4まで進出。西日本大会では、2年連続3位という好成績を維持しています。「私たちのチームは、全国のトップレベルで活躍された監督をはじめ、先輩方がコーチを引き受けてくれるなど、指導者に恵まれています。試合でいい成績を残すことで、感謝の気持ちを伝えたいと思っています。」



スティックを使い円盤状のバックを奪い合う。ボディチェック(体当たりして防御すること)は迫力いっぱい。



昨年3月、西日本大会で3位に。準決勝はPKでも決まらず、最後はクジ引きでの惜敗だった。



リンクでのプレイヤーはゴールキーパーを含む6人。試合中、1分間くらいプレーすると次々に選手交代していく。それだけ激しいスポーツだということ。



ハードな氷上練習に入る前、念入りにストレッチ。